



(挨拶の中坪達哉会長)

令和六年度総会及び俳句大会が、木々の緑が目映い六月一日(土)午後一時より北日本新聞ホールに於いて九十三名の参加を得、盛大に開催された。森川敬三幹事司会のもと、中坪達哉会長は「七分

また詠む対象も広がっていく」と挨拶。総会の議長に大谷こうき理事を選出し、中島平太事務局長が令和五年度の事業報告、収支決算報告を行い、大久保置酒監事が監査結果を報告し、これらを承認。さらに令和六年度事業計画案、収支予算案を提案し、原案通り拍手で承認された。又、役員一部改選について、中坪会長から、久崎富美子幹事の退任に伴い、新たに布本美知子氏(理事より)が幹事に新しく就任することが承認され、全ての議案は可決し、総会は滞りなく終了する。

富山県俳句連盟
夏季吟行会(予定)
日時 七月十四日(日)午後一時より
会場 氷見市ふれあいスポーツセンター会議室
水見市鞍川四十三一
TEL 〇七六六(七四)八五〇〇
朝日山公園、見晴しの丘、ふれあいの森
比美乃江公園エリア、藤子不二雄Aま
んがワールド、上日寺とオオイチョウ
十一時半厳守
締切 二句出句 千円
会費 千円
交通 JR 氷見駅よりタクシー(四人乗)千五百円程度(タクシーを予約する場合の電話番号は〇七六六(九一)〇三三 平和交通)



令和六年度
総会及び俳句大会
堀田 季何 先生の講演を聴く

第 98 号
令和六年七月一日発行
富山県俳句連盟
富山県安住町二一四
〒930-0094 電話 〇七六四(五三)四三
振替番号 金沢 五一一七一〇八
北日本新聞社編集局内

富山県芸術祭主催
富山県民芸術文化祭参加
富山県俳句連盟秋季俳句大会(予告)
講師 高岡市万葉歴史館 学芸課長
日時 十月五日(土)午後一時
会場 北日本新聞ホール
※第六回越の讃歌、募集句のテーマ「衣類」

合同句集(第四十九集)
原稿募集
句集を次のとおり刊行いたします。
同封の原稿用紙により全員こぞってご応募ください。
○作品数 十五句(令和五年七月から令和六年六月までの自選句)
○記載要領 所定の原稿用紙に姓号、(ふりがな)作品(春夏秋冬の順が望ましい)本姓名、生年月日、郵便番号、住所、電話番号、所属結社または句会名を記載する。希望者は住所等の未掲載も可。
かなづかいには新旧混用せず何れかに必ず〇を付けること。
○締切 七月二十七日(土)期日厳守。
○出句料 三千元(一冊進呈)
同封の振替用紙で原稿発送と同時に郵便局へ払い込むこと。
○送付先 千九三五-〇〇〇五
氷見市栄町一〇-二六
坂田 直彦 方
富山県俳句連盟合同句集係宛
○刊行予定 十月

春季俳句大会作品抄

◇堀田季何先生特選句

河豚汁やあつけらかんと癌の事
ひとり居のみんなの体操日脚伸ぶ
点眼の一滴春の万華鏡
嘴に従ひて飛ぶ鷺や春
春愁やシュークリームの穴一つ

中尾 三久
青木 章子
尾山勢都子
加能 雅臣
村田 悦子

◇連盟選者特選句

義 信選 うららかや駆け出しさうに靴干され
かづを選 観覧車色ぬりかへて花の雲
冬 青選 春眠や身の門を解き放し
可津志選 ごみ拾ふ授業はつらつ春の風
置 箔選 「カウカウ」と励まし合いて鳥帰る
こうき選 地震の地に生きて今年の蓬摘む
喜 子選 一日は貴き一生木の芽風
康 裕選 奥能登のあを匂ひ立つ若布汁
久 恵選 嘯りにしばし委ねし乳母車
城 子選 金鳳花海鳴り遠く二次避難
ゆう子選 連弾の耳朶にそこはか梅香る
弥 生選 税理士の爪の先まで春の色
秀 子選 やはらかき風と日と土燕来る
美智子選 うららかや駆け出しさうに靴干され
洋 子選 地虫出づ駅に恐竜咆哮す
直 彦選 花時や窓辺の妻の車椅子
一 子選 あたかや父のあぐらをとりあひて
重 之選 冴返る母に履かせる介護靴
桂 子選 あたかや父の軽口復活す
恵 子選 初つばめ村に十年ぶりの嬰
昭 夫選 三十年先まで青きさよりかな
勇 選 耳鳴と同じ感覚木の芽時
せつ子選 あたかや父のあぐらをとりあひて
寿 山選 新天地へ踏み出す子らの花便り
三 久選 靴下にはつはつ毛玉春さざす

石田 英子
川上 美佐
湯口 静枝
高井 富子
早川 範子
高橋せつ子
新井のぶ子
石黒 順子
升田 義次
古小路憲子
岡本 芙美
宮崎あつ子
新村美那子
石田 英子
倉沢 由美
石黒 忠三
脇坂琉美子
志摩 一美
扇谷 数子
脇坂琉美子
加能 雅臣
西口 鶴子
脇坂琉美子
越橋香代子
石灰 潤子

◇入賞句

平 大選 点眼の一滴春の万華鏡
達 哉選 茹でこぼす青菜の匂い仏間まで
睦 子選 蜜を吸ふ蝶にとぼしき花の幅
美知子選 母の日の母の手はぐす雨の午後
多佳子選 酸葉囀むスキップなんてもう出来ぬ
真智子選 ふぞろいに植えた通りにチュリッ
幸 子選 春の花余さず地震の供花とせむ
あつ子選 家系図にややを加へし初ざくら
千鶴子選 赤を濃くして風船の萎みけり
純 子選 丹念にたたむ制服卒業子
敬 三選 春深む反故紙かそかを聞く音
稔 選 春の雪土蔵造りが肩崩す
とおる選 春光や白磁の壺のうす埃

尾山勢都子
大倉 寿恵
畠山 美苗
筏井 恵子
谷 順子
稲田 雅子
二俣れい子
石田阿畏子
明官 雅子
浅野 義信
高木 昭夫
加藤 英一
中 静子

天位 11点
一棹で変る景色や花見舟
地位 9点
巢燕を見てから入る診療所
人位 9点
真つ青な空掃くやうに鳥帰る
4位 8点
地震の地に生きて今年の蓬摘む
酸葉囀むスキップなんてもう出来ぬ
畦を塗る豪雨の傷と地震の傷
5位 7点
料峭や背中向け合う喫煙所
茹でこぼす青菜の匂い仏間まで
しな書のひらがな尽しさくらどき
6位 6点
北窓を開けてきのふとちがふ風
7位 5点
呼ぶやうに応ふるやうに恋の猫
奥能登のあを匂ひ立つ若布汁
赤を濃くして風船の萎みけり
春なれや口笛吹いてみたき雲
花の雲平和の鐘に長き列
道草の帽子は三つ犬ふぐり
被災地を潤す春の星数多

大西 昭子
吉野 恭子
西野 睦子
高橋せつ子
谷 順子
成瀬貞紀子
跡治 順子
大倉 寿恵
久崎富美子
能登 恭子
澤田 敏江
石黒 順子
明官 雅子
大谷こうき
田上眞知子
中村 真澄
河岸 佳子

春の歌はこんで移動販売車
地虫出づ駅に恐竜咆哮す
8位 4点
耕しや畔は唯一の母の椅子
ひとり居のみんなの体操日脚伸ぶ
炊き出しのおにぎり五百なお余寒
一病に従がふ日々の春炬燵
捨て煙の風の荒ぶる犬ふぐり
麦青む忽然と建つケアハウス
山彦は先生の声風光る
観覧車廻る大地の桜かな
花時や窓辺の妻の車椅子
初燕海王丸へ迷ひ無く
花束の一本供華に卒業子
傷つきし湾の底から蜃気楼
母ほどは使はぬ針を祀りけり
ひび割れた土蔵そのまま黄砂降る
階段の上下運動春浅し

吉田 憲子
倉沢 由美
八尾とおる
青木 章子
田畑晴津子
中陳志美子
高野 弘深
浅野 義信
荒田眞智子
山西 澄子
石黒 忠三
成瀬貞紀子
清水眞智子
吉田 憲子
石田 英子
垣内 和代
稲生みゆき

富山県現代俳句協会

秋季吟行俳句大会（予告）

日時 九月二十九日（日）午前十時受付
会場 高岡市生涯学習センター五〇三号室
高岡市末広町一八 ウイング・ウイング
吟行地 句会場近くの古城公園や大仏・山町筋等
参加費 二句 千円（当日会場受付時に支払い）

俳人協会富山県支部 俳句大会（予告）

協会員以外の方のご参加も歓迎いたします。
日時 九月二十三日（月・振替休日）午後一時
会場 富山電気ビル四階光の間
講師 上田 日差し 先生
演題 「俳句のポエジー性」
―五千石句を中心に―

講演要旨



耳目で味わう俳句

「楽園」主宰
現代俳句協会理事

白生

富山県俳句連盟の春季大会では、「耳目で味わう俳句」という演題でお話しさせていただいた。端的に言えば、俳句において音と表記は大事だ、音と表記を考へて作るべきだ、という内容である。

まず、俳句が広義の詩であり、詩と音は不可分であるという視点を述べた。

実は、近代における翻訳ミスの所為で、詩には、広義のものと狭義のものが存在する。前者が詩歌、つまり poetry 全般、後者が外国風の詩である。長歌・短歌・連歌・俳諧連歌（連句・古典俳句）は当然のこと、それらから派生した近代以降の俳句も広義の詩に含まれる。

広義の詩が、具体的に何であるかは、様々な意見が存在するが、「詩は音楽にならなかった言葉であり、音楽は言葉にならなかった詩である」（ヘルマン・ヘッセ）、「詩は凝縮した感情表現、より簡単に言えば、高められたことばにすぎない」（新倉俊一）、「散文は歩行、詩は舞踏」（ポール・ヴァレリー）、といった言葉からは、韻律の重要性がうかがえる。

但し、歌をぶった切った発句が独立する形で派生した近代以降の俳句は、短さゆえ、「調ぶる」（香川景樹）という歌としての性質が具現しづらくなり、韻律はさほど考慮されなくなってしまった。しかも、明治以降、俳句をはじめ、詩歌の朗誦は廃れてしまい、ひたすら黙って書かれ、黙って読まれる文芸に変わってしまった。

しかし、黙読しても、音は脳内で響く。また、俳句が歌の一部であった以上は、音の要素を一部受け継ぐのではないだろうか、そして、詩である以上は、音の要素は必須ではないだろうか。

次に、俳句の技術は、音と表記を無視して完成しないという視点を述べた。俳句には様々な要素があって、句意（表の意味、裏の意味、想像させる部分）、情報量、焦点、余白、定型か否か、文体の型、言葉の選択や措辞、季題・季語・キーワード、修辭、表記、発音などがある。特定の要素を磨くのは、技巧の話であって、真の技術は、一句一句、一つ一

つの要素の性質、及び、要素のバランスを適切に判断することにある。音に関する要素は、主に、定型、修辭（オノマトペ・押韻・リフレインなど）、発音の三つもある。表記にしても、日本語の場合、世界でも珍しく、三つの文字体系が存在し、効果的な使い分けが求められる。当然、音と表記を無視して俳句の技術を極めることはできない。

講演の後半は、音の三つの要素及び表記の妙について話した。

定型は、石田波郷の十七字、飯島晴子の五と七を中心とした三句構造、金子兜太の三三三から九九九までの三句構造まで幅広い。また、夏石番矢は、定型感覚は飯島晴子に近いが、俳句を成立させる要素として定型に拘らない三句構造を説く。高浜虚子、小澤實、夏井いつきによる上五が大幅な字余りである定型句、晴子の定型句、番矢の自由律句を挙げた。

直後、余談として、俳句における、四拍子説（8ビート説もほぼ同様）と秋尾敏の音歩説を紹介し、ポリリズムに触れた。また、音も文字も電子信号として脳が処理していて、心理やイメージに影響することを述べた。

オノマトペについては、秋元不死男、飯田龍太、岡井省二、川端茅舎、今井杏太郎の句を挙げ、四種類の技法を紹介した。

押韻については、「五七五の句切れ目を、同じ母音、または子音でつなぐ手

法」（秋尾敏）である「音通」から紹介し、敏と芭蕉の句を例示した。そこから、敏、小澤實、私の押韻が顕著な句を紹介し、さらに、稲畑汀子の句を皮切りに、實、田中裕明、小川軽舟、私の句を挙げ、意（内容）と音を合わせる、一種のワードペインティング（トーンペインティング）というべき技法について話した。

表記については、飯田蛇笏、裕明、實、私の句を引いて、ひらがなだけ、カタカナだけ、漢字だけだと、どのように味わいの差が生じるかを検証してみた。そして、加藤楸邨、鈴木六林男、實、私の句を例として、どのように三つの文字体系を意識的に操作すれば特殊効果を上げられるか示した。

表記という点では、前衛系の俳人による取組みとして、今世紀に作られた図形（視覚）俳句及び記号俳句を紹介した。

最後に、意と音と字を合わせるという、窮極的な「耳目で味わう」技法を、小澤實の〈レンタルビデオ屋水柱籠めなりつるるな〉と〈深海六千五百メートル潜りし男と鰐を食ふ〉を例にして解説した。一風変わった内容になったが、師系や協会の垣根を越えて、俳句の音と表記に関する考えや技法を紹介できたと思う。俳句における音と表記を考える一助になれば幸いである。

この機会をくださった富山県俳句連盟の皆さまに御礼申し上げる。

令和5年度決算報告書										(単位：円)
収入の部					支出の部					
科目	予算額(A)	決算額(B)	差(B-A)	備考	科目	予算額(A)	決算額(B)	差(B-A)	備考(決算の内訳)	
繰越金	1,335,545	1,335,545	0		事務費	400,000	173,803	226,197	通信費 133,298 消耗品費 9,507 その他 30,998	
会費	1,200,000	1,162,700	- 37,300	R 5 年度分会費	会議費	80,000	85,895	- 5,895		
過年度分会費	30,000	15,000	- 15,000		事業費	900,000	845,415	54,585	総会・春季大会 424,289 夏季吟行会 58,682 秋季大会 237,897 会報 107,497 越の賛歌 17,050	
助成金	150,000	150,000	0	富山県芸術文化協会より	交通費	200,000	163,100	36,900		
寄附金	5,000	0	- 5,000		負担金	55,000	35,000	20,000	富山県芸術文化協会負担金	
合同句集代金	780,000	774,000	- 6,000	第48集 購入258部	合同句集代金	960,000	778,096	181,904	第48集 325部発行	
雑収入	1,000	63,006	62,006	夏季吟行会参加費、利息	雑支出	40,000	880	39,120	振込手数料等	
					予備費	866,545	0	866,545		
合計	3,501,545	3,500,251	- 1,294		合計	3,501,545	2,082,189	1,419,356		

(収支差額 (収入合計－支出合計) 1,418,062円 は次年度へ繰越)

令和6年度予算計画書										(単位：円)
収入の部					支出の部					
科目	予算額(A)	前期予算額(B)	差(A-B)	備考	科目	予算額(A)	前期予算額(B)	差(A-B)	備考	
繰越金	1,418,062	1,335,545	82,517		事務費	400,000	400,000	0	通信費 320,000 消耗品費 60,000 その他 20,000	
会費	1,140,000	1,200,000	- 60,000	380名分想定 会員数403名 (年度初め)	会議費	80,000	80,000	0		
過年度分会費	15,000	30,000	- 15,000		事業費	900,000	900,000	0	俳句大会 700,000 会報 150,000 その他 50,000	
助成金	150,000	150,000	0	富山県芸術文化協会より	交通費	200,000	200,000	0		
寄附金	5,000	5,000	0		負担金	55,000	55,000	0	富山県芸術文化協会負担金	
合同句集代金	750,000	780,000	- 30,000	第49集 250部	合同句集代金	960,000	960,000	0	320部発行予定	
雑収入	60,000	1,000	59,000	夏季吟行会参加費、利息	雑支出	40,000	40,000	0	払込手数料 他	
					支出計	2,635,000	2,635,000	0		
					予備費	903,062	866,545	36,517		
合計	3,538,062	3,501,545	36,517		合計	3,538,062	3,501,545	36,517		

◇受賞

○第42回とやま文学賞
佳作 塚原 鐵

◇消息

○富山県現代俳句協会は、三月三十一日、令和六年度総会を開き、役員改選で新会長に高木昭夫氏を選出した。森野総会長は顧問に就いた。その後、春季俳句大会が行われた。会員八十五名が事前に一句づつ投句し、出席者四十二名の互選で入賞句を選んだ。
天位 乳を飲む嬰の流し目春うらら
地位 春風を聞き分けて居る牛の耳 細野 千里
人位 寒晴や連山白を荒削り 八尾とおる
山本 正子

○第四回富山県現代俳句協会賞
受賞 木の芽雨 飯干ゆかり
準賞(応募順) 冬晴れ 河岸 佳子
一乗の風 西田 道代

○富山県内に拠点を置く俳句結社「辛夷社」が発行する俳誌「辛夷」が今年で創刊百周年を迎え、記念特集号を四月一日に刊行した。初代主宰は前田普羅。月刊で詩齢は千百七十号と、全国でも十指に入る。巻頭には歴代主宰四人の顔写真と略歴のほか、中坪達哉主宰が「前田普羅その大きな俳句世界」と題してつづった評論も収録されている。
○「辛夷」創刊百周年記念俳句大会が、五月十二日、富山電気ビルで行われた。

百名の出席、投句者百三十六名。中坪達哉主宰選。入賞者(大賞、準大賞のみ)
※六句中一句掲載
大賞 花菖蒲風抜くるとき息を吐く
太田 硯星(金沢市・県俳句連盟会員)
準大賞 更衣今年の風に耐えらし
緑陰に膝撫でてまた歩き出す 二俣れい子
※他に「秀逸」九名
野村 邦翠

◇句集等出版紹介
「連峰」みのり俳句会合同句集 令6・3
「辛夷」創刊百周年記念特集号 令6・4

第43回とやま文学賞 作品募集
俳句 未発表句 二十句
(手書きの場合は四百字詰原稿用紙、ワープロ・パソコン原稿は20字20行) 締切 令和六年九月三十日(消印有効)
送り先 〒930-0096 富山市舟橋北町七二
(一社)富山県芸術文化連盟事務局
〈とやま文学賞〉係宛

編集後記
連盟会報98号をここにお届け致します。次回99号は令和六年十二月一日発行予定です。会報に関する記事等があれば原稿用紙に記入の上、左記に送付下さい。
〒931-0121 南砺市井波一四八五二六
FAX・TEL (〇七六) 八二二九〇八 高田 勇